



LOT NAME

Hayma Kharijiya

SPECIAL RESERVE



Hayma Kharijiya (ハイマ・ハリジヤ) 地区のBait Alal (バイト・アラル) 村住む300名のコーヒー農家にとってコーヒーは彼らの“誇り”と“信仰”の象徴でもあり、数百年にも及ぶ伝統継承の証でもあります。イエメンのコーヒー農家は類まれな過酷な気候条件の下で、収穫量は他の産地より遥かに少ないのですが、決して農地を見捨てることなく細々と、しかし大切にコーヒーを生産し続けています。

以前は、生産者の財政難や認識・知識不足を逆手に取った国内のコーヒー業者によって買い叩かれていたBait Alal村の人々ですが、2013年にQIMAによって、その高い潜在性を見出されたBait Alal村の生産者は、市場価格の倍価での買取、無金利の融資、そして販売利益の還元を受け、ただ収入が増えただけでなく、世界にその品質が認められた事を誇りに思い、その高い品質を損なう事なく、QIMAの指導のもと丁寧な栽培・収穫を行っています。

ただ高値で買い取るだけでなく、適切な木々の管理や収穫、丁寧で管理の行き届いた乾燥を行い続け、2017年には97点のスコアを獲得しています。

品種：YEMENIA種

精製：ナチュラル



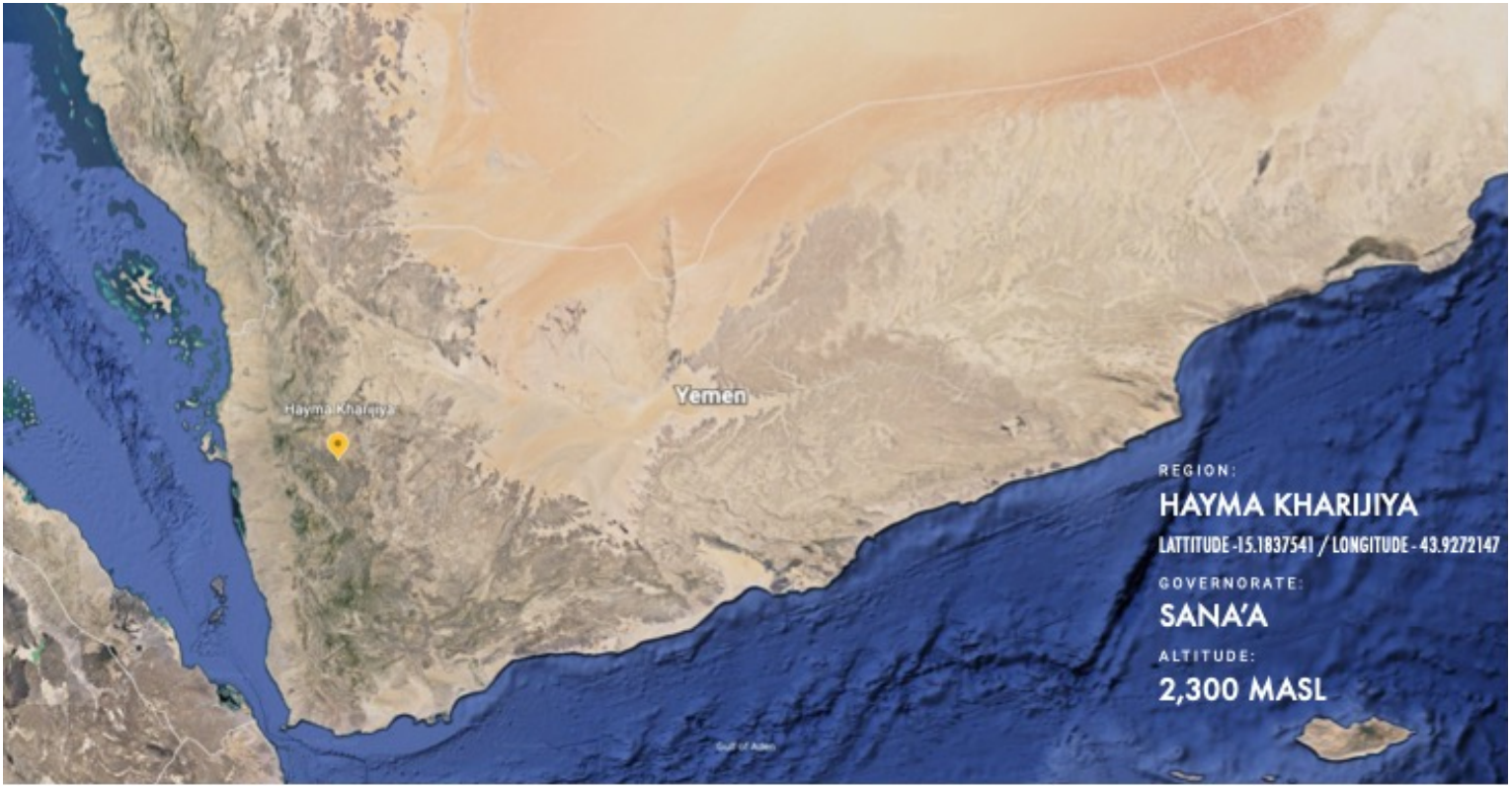
地域：HAYMA KHARIJIYA

行政区域：SANA'A

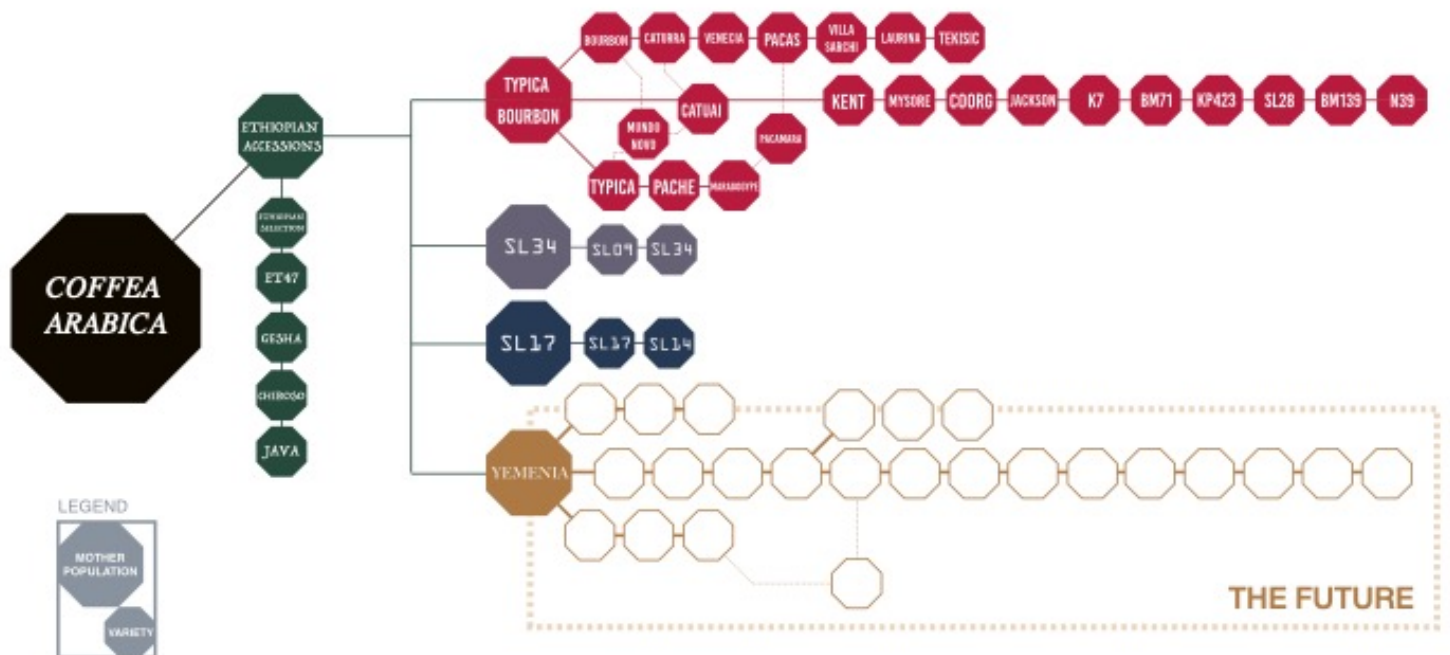
GPS: LATT -15.1837541

LONG -43.9272147

標高：2,300m



A WORLD OF COFFEE GENETICS



GENETICS

Yemenia

世界で認知されているアラビカ種の98%以上の品種がイエメンにルーツを持っています。エチオピアの森の中から発見されてアラビカ種は少なくとも600年以上前にイエメンに渡り、初めて耕作作物として広がりました。エチオピアの深緑の森の中から、圧倒的な乾燥地帯であるイエメンに渡ったコーヒーはその自然環境に適応すべく自然順化・変異されていきました。凡そ300年以上の年月を経て順化・遺伝的浮動*によってエチオピア原種とは異なる品種に変異していき、その後世界に広がった多種多様なアラビカ種の“母体種”となりました。

*遺伝的浮動：集団の大きさが小さい場合、あるいは気候・飢餓などの要因によって集団が小さくなった時、偶然性によってある遺伝子が集団的に広まる現象。

2020年8月14日、QIMAは世界初の発見となる新たな“母体”品種 YEMENIAの発見を公表しました。この品種の調査にはQIMA(Yemen)をはじめ、RD2(France)、CATIE(Costa Rica)と共同で行いました。イエメン史上最大規模のこの相互検閲調査は範囲25,000km²に渡り、イエメンのコーヒー史だけでなく、世界の品種史においても大きな影響を与え、GRACE(Genetic Resources and Crop Evaluation)誌にも掲載されています。

<http://link.springer.com/article/10.1007/s10722-021-01139-y>

